

医師としての適性の評価の方法

〈評価の基準〉

- A: 優秀(上級医のレベルに達している)
 B: 合格レベル(身につけている／独立して診療できるレベルに達している)
 C: 合格レベルに近い
 D: 合格レベルに遠い(大きな努力を必要とする)
 N: 評価対象外(経験しなかったなどの理由で評価できず)

書き方:各評価項目の該当するところに○をつけて下さい。例えば、最初の項目がA評価なら「いつも行き届いている」の枠に○を記入して下さい。一番右はコメントの番号との対照を示す欄ですので、ここにA～D、Nを書き込まないで下さい。

評価項目		A	B	C	D	N	コメント番号
Ⅰ. 患者に対するコミュニケーション能力							
1	患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。						
2	医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる。						
3	守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。						
Ⅱ. チーム医療							
1	指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。						
2	上級および同僚医師、他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。						
3	同僚および後輩への教育的配慮ができる。						
4	患者の転入、転出にあたり情報を交換できる。						
5	関係機関や諸団体と担当者とコミュニケーションがとれる。						
Ⅲ. 問題対応能力							
1	臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への対応を判断できる。						
2	自己評価および第三者による評価をふまえた問題対応能力の改善ができる。						
3	臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。						

4	自己管理能力を身につけ、生涯にわたり基本的診療能力の向上に努める。						
---	-----------------------------------	--	--	--	--	--	--

IV. 安全管理

1	医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。						
2	医療事故防止および事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。						
3	院内感染対策を理解し、実施できる。						

V. 症例提示

1	症例提示と討論ができる。						
2	臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する。						

VI. 医療の社会性

1	保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。						
2	医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。						
3	医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。						
4	医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる。						

研修医 氏名：

総合評価						
------	--	--	--	--	--	--

研修管理責任者 氏名(自筆)：

印